

**障がい者就労施設における生産活動の効率化に資するICT機器等の導入事業
事業効果（事業導入前後の比較）**

1. 補助事業者

法人名	江津コンクリート工業株式会社
事業所名	アグリプラント甲斐の木
提供サービス	就労継続支援A型

2. 事業概要

事業実施の背景・課題	生産活動としてトマト・アスパラの取り組みを行っている。特に重要な灌水作業においては、天候の状況に応じたコントロールが必要となる為、作業できる利用者は限定されている課題を抱えていた。また、日々の灌水量、時間を日報に記録しているため、作業時間が大幅にかかり、トマト生産作業に時間を費やすことができない課題も抱えていた。アスパラ栽培においては、ハウス内を一定の温度環境に保つ必要があり、サイドカーテン開閉作業が必要となるが手動式の為、細かな管理が難しいことと、開閉作業の作業負担が増加し、利用者負担の増加と安定した生産量を確保することができていない課題を抱えている。
事業目的・効果	トマトの品質管理向上及び作業標準化とアスパラ栽培における作業負担軽減を目的として、トマトハウスに日射コントローラー」と給液データーロガーの導入、そしてアスパラハウスへ「ソーラー式巻き上げ機器」の導入を行い、品質管理の向上による収穫量の増収を図り売上の向上効果を見込む。
導入機器（名称・数量等）	名称：日射コントローラー、給液データーロガー 数量：1式 名称：ソーラー式自動換気機器 数量：1式
導入機器の用途	・自動灌水及び灌水データの自動記録・ハウス開閉作業の自動化
導入に要した経費（税込・円）	885,000

3. 事業効果（導入前後の比較） ※具体的・詳細に記載してください。

項目	事業実施前の状況	事業実施後の状況
利用者の従事可能な担当業務の拡充	灌水操作は、天候の変化に応じてその都度、操作を行う必要があり操作が複雑な為、職員が行う必要があった。同様に灌水記録に関しても正確に記入を行う必要があり、職員の補助が必要であった。 ハウス開閉作業は、ハウス内温度状況に応じて、手動により開閉を行う必要があり、取り組むことができる利用者が限定されていた	日射コントローラーにより灌水のタイミングが自動化され、かつ、データーロガーにより日々の灌水量時間がデータに蓄積できるようになり作業が簡素化され利用者が主体的に取り組むことができるようになった。 ソーラー式自動換気機器により、開閉設定温度の変更のみとなり、取り組むことができる利用者が増えた。
作業の効率化	灌水は、日々天候や生育の状況を判断し灌水量の設定やタイミングを判断する必要があり、時間がかかっていた。・灌水記録も、日々のデータを手書きにて書き写す必要があるため、時間及び記入間違いも発生していた。・ハウス開閉作業は、一日に多いときは、4～5回開閉が必要であり、大幅な時間と体力面の負担がかかっていた。	・灌水のタイミングや灌水量を自動的に機械が判断し実施することができるようになり、作業時間の短縮及び操作も簡素化された。 ・灌水記録は、データ保存することができPCにてデータを抽出し保存を行うことができ、入力時間の削減と誤記入の防止を図ることができた。 ・ハウスの開閉作業は、温度設定の変更のみ作業となり、開閉作業が省略され、かつ、設定温度の変更のみの作業に簡素化され、他の作業に従事できる時間を増やすことができた。
工賃・賃金向上	・灌水操作、灌水記録、ハウス開閉作業において、利用者単独での作業は難しく職員の補助もしくは、職員が主体的に取り組む必要があった為、栽培管理作業の遅延が発生、生産量の減少につながっていた。	・灌水操作、灌水データ記録、ハウス開閉作業が観測された事と作業負担の大幅な軽減につながり、かつ、職員の負担軽減にもつながり、栽培管理に時間を費やすことが増え、安定した品質と生産量の増加につながり賃金向上につなげることを見込むことができる
障がい特性に応じた適切な就労支援	灌水操作、灌水記録、ハウス開閉作業において、高度な理解力・判断力、計算力、体力が必要不可欠な必須条件となっていた為、取り組める利用者が限定されていた。	今回、導入を行った機器により作業が簡素化され、かつ、作業負担の軽減化につながり、高度な能力が求められない作業項目となり、取り組むことができる利用者の幅を広げることに繋がった。

4. 写真等（導入機器、導入機器を使用した作業風景等）

ソーラー式自動換気機器	日射コントローラー、給液データーロガー	作業風景
 	 	 

※本資料は、厚生労働省へ提出するほか、島根県HP等に掲載する可能性があります。

**障がい者就労施設における生産活動の効率化に資するICT機器等の導入事業
事業効果（事業導入前後の比較）**

1. 補助事業者

法人名	江津コンクリート工業株式会社
事業所名	就労継続支援B型事業所アグリプラント甲斐の木
提供サービス	就労継続支援B型

2. 事業概要

事業実施の背景・課題	生産活動としてミニトマトの生産販売の取り組みを行っており、品質管理として糖度測定を実施しているが、現在使用している糖度計（破壊式）は、果汁を取り出す必要がある為、測定を行える利用者が限定されている。また測定を行ったトマトは廃棄することになる為、生産量のロスにもつながっている課題を抱えている。
事業目的・効果	非破壊式糖度計の導入により糖度測定作業時間の短縮及び簡素化と高糖度トマトの新規商品開発を目的とし、きめ細やかな品質管理体制の確率及び付加価値の高い商品販売により売上向上を見込む。
導入機器（名称・数量等）	名称：PAL-光センサー 3MINi & PAL - 0 数量：2台
導入機器の用途	・ トマトの糖度測定（品質管理） ・ 高糖度トマト商品販売における選果
導入に要した経費（税込・円）	250,800

3. 事業効果（導入前後の比較） ※具体的・詳細に記載してください。

項目	事業実施前の状況	事業実施後の状況
利用者の従事可能な担当業務の拡充	・ 測定前にトマトを切る必要があるため、職員が主として取組む必要があった。 ・ 収穫作業も色の判断が必要であるため、利用者は補助的な作業に限定されていた。	・ 糖度センサーを使用することで、作業が簡素化された為、利用者が主体的に取り組むことができるようになった。 ・ 色の判断が難しくとも、糖度センサーを果実に直接充てる事により、糖度数値を判断基準とすることができ、利用者の作業とすることができた。
作業の効率化	・ 測定前にトマトを切ったり搾ったりする必要があるため、測定に手間がかかっていた。 ・ 測定後に糖度計を拭いたり洗浄したりする必要があった。	・ トマトに糖度計を当てるだけで糖度を測定することができるので、測定を迅速に行う事ができ、切ったりする手間や洗浄作業を省略でき作業の効率化を図る事ができた。
工賃・賃金向上	・ 糖度測定作業、収穫作業において、利用者のみでは作業を行うことが困難である為、職員が主体的に取り組む必要があるため、作業の遅延が発生し、1日の出荷量が限定されてしまい、売上の向上につながらず、工賃向上を停滞させていた。	・ 糖度センサー導入により、測定作業、収穫作業を利用者が取り組むことができ、職員の作業時間の拡充を図る事ができ、出荷量の増加を見込む事ができ、売上向上を図ることが期待できる。 ・ 全数検査を行うことができ、高単価の商品規格にて販売を行う事で、売上の向上につながり、工賃向上につなげるが見込まれる。
障がい特性に応じた適切な就労支援	・ 測定前にトマトを切る作業がある為、細かな作業を不得意とされている利用者や判断能力に欠ける方は、取り組むことができず作業を行える利用者が限定されていた。	・ 測定作業が単純化される事により、複雑な作業を好まない方や細かな作業を苦手とされている方においても取り組む事ができるようになった。

4. 写真等（導入機器、導入機器を使用した作業風景等）

PAL-光センサー 3MINi	測定状況	測定状況（ハウス内）
		

※本資料は、厚生労働省へ提出するほか、島根県HP等に掲載する可能性があります。